

館矢間地区別計画書

すくすく いきいき ゆうゆう 「たてやま」

「子どもたちがすくすく育つ 安全で安心できるまちづくり」

「青年・壮年がいきいき活躍する 活力あふれるまちづくり」

「高齢者がゆうゆうと暮らす ふれあいとうるおいのあるまちづくり」



令和 3 年 3 月改定

館矢間地区協議会

目 次

あいさつ	1
1. 館矢間地区の概要	2
2. 基本方針及び体系図	3
3. 実施計画表	4
4. 関係資料	
(1) 第2次館矢間地区別計画策定委員名簿	10
(2) 第2次館矢間地区別計画策定委員会会則	11
(3) 策定体制	13
(4) 策定委員会経過	14
(5) わいわい懇談会の記録	15
(6) 館矢間地区人口推移・行政区別人口	21



一区東の水田地帯から望む蔵王山

あ い さ つ

館矢間地区協議会長 川村賢司

館矢間地区協議会では、各地区の旧公民館を改変して設置されたまちづくりセンターを活動拠点とし、丸森町の支援のもとに、様々な住民自治組織活動に取り組んできました。そして、この活動の指針は、平成18年3月に制定された「館矢間地区別計画書」によるものであります。～すくすく いきいき ゆうゆう「たてやま」～のスローガンのもと、「子どもたちがすくすく育つ 安全で安心できるまちづくり」「青年・壮年がいきいきと活躍する 活力あふれるまちづくり」「高齢者がゆうゆうと暮らす ふれあいとうるおいのあるまちづくり」を基本方針とし、約10年間活動を推進し、大きな成果を収めてきました。

しかしながら、当地区もこの10年間で丸森大橋や館矢間バイパスの開通とそれに伴い大型スーパー施設が次々に出店し、また通行車両（大型車両を含めた）の激増など、生活環境が大きく変わってきました。加えて、平成23年3月の東日本大震災や近年毎年のように全国で発生している台風や降雨災害により地区防災の大切さが見直されていた最中、一昨年10月に発生した令和元年東日本台風は当町に甚大が被害をもたらしました。これらの事象により、「安全で安心できるまちづくり」の視点から、今回の地区別計画にも反映させることとし、当初の計画より1年遅れた形で本地区別計画書発行の運びとなりました。

計画作成に当たっては、準備会で第2次館矢間地区別計画策定委員会の構成、規約、委員会組織などについて検討し、委員会を設立しました。特に策定委員の構成につきましては、今後10年間はまちづくりの指針となりうる計画にしていこうという視点から、出来る限り若い人材を選考し、具体的には計画策定ワーキンググループを(1)生活安全教養部会、(2)地域振興部会、(3)健康福祉部会、(4)総務部会の4つとし、話し合いを積み重ねて新計画策定を進めていただきました。

おわりに、本計画の策定に当たりご尽力くださいました方々をはじめ、情報提供やご提言をいただきました各種団体や地域の方々、ご指導ご助言いただきました町関係職員の皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。そして、本地区別計画書が「館矢間地区協議会」という大きな船が航海するための舵取り役として大いに活用されますことを願い、あいさつといたします。

1. 館矢間地区の概要

館矢間は、丸森町の北部に位置しており、角田市と境を接している。伊具盆地の中央を流れる阿武隈川左岸の堆積平野と西部の丘陵地帯を含んでいる。

江戸時代には、館山村、山田村、木沼村、松掛村、小田村の五つの村があり、角田館主石川氏の配下にあった。明治 22 年に町村合併がおこなわれ、中心となった館山の音をとって「館矢間」の村名にしたといわれている。館矢間の「やま」を山ではなく矢間としたのは、館山にあった館跡から矢を放ち、矢の届く間（範囲）に、山田村、木沼村、松掛村、小田村の四つの村があるという意味を持たせるために館矢間の地名にしたと伝えられている。

館矢間は、阿武隈川の西側に位置し、西方の山地についている地形であるため、江戸時代は、伊具郡西根のうちに入り、その支配も角田館主石川氏の知行地、蔵入地（藩直轄の田畑。年貢はすべて藩庫に収納されていた土地）となっている。また、石川氏の家中、足軽の町として木沼町、^あ久^と新田町がつくられている。

館矢間の西側、大張と境を接している付近は、阿武隈山地で標高 200m 前後の花こう岩を母岩とした山地で、長年の風雨によって開析進み、複雑な地形をなしている。その山麓は標高 40～50m 前後の地質時代第三紀層の丘陵地帯があり、平地の沖積平野と接している。この地層は堆積岩を母岩としていて比較的軟弱であるために開析作用が著しく弁天沼周辺、松掛、水落場付近に見られるような複雑で入り組んだ地形をなしている。沖積平野の中にある長内、玉川、坪沼、新田町、表町、沖、木沼町などの集落のある場所は、阿武隈川が作り出した自然堤防上に位置している。自然堤防は川沿いに発達している地形で、川の氾濫によって土砂が堆積した地形である。館矢間の現在の平地は阿武隈川によって形成された肥沃な土壌であり、生産性の高い土地である。しかし、その反面、阿武隈川は流れを縦横に変えて現在に至っており、洪水という災害をもたらし、館矢間地区の人々を苦しめてきたことは見逃せない。館矢間の地形と阿武隈川の流れは、人々の生活に大きく関わってきたのである。

館矢間は、現在でこそ水田が多くなっているが、畑作地帯で、昔から養蚕が盛んであった地区である。これは桑園とするのに土質合っている事と共に歴史的なものもあると思われる。昭和 30 年代までは養蚕が盛んであったが、現在では、桑園はほとんどなくなり、水稻耕作を中心としながらも園芸作物、酪農等を組み合わせた複合経営を行うようになってきている。

また近年では、丸森大橋及び国道 113 号線館矢間バイパスが敷設されたことによる交通の変化や大型店舗の進出、宅地の増加など大きな変化を受けている中である。

2. 基本方針及び体系図

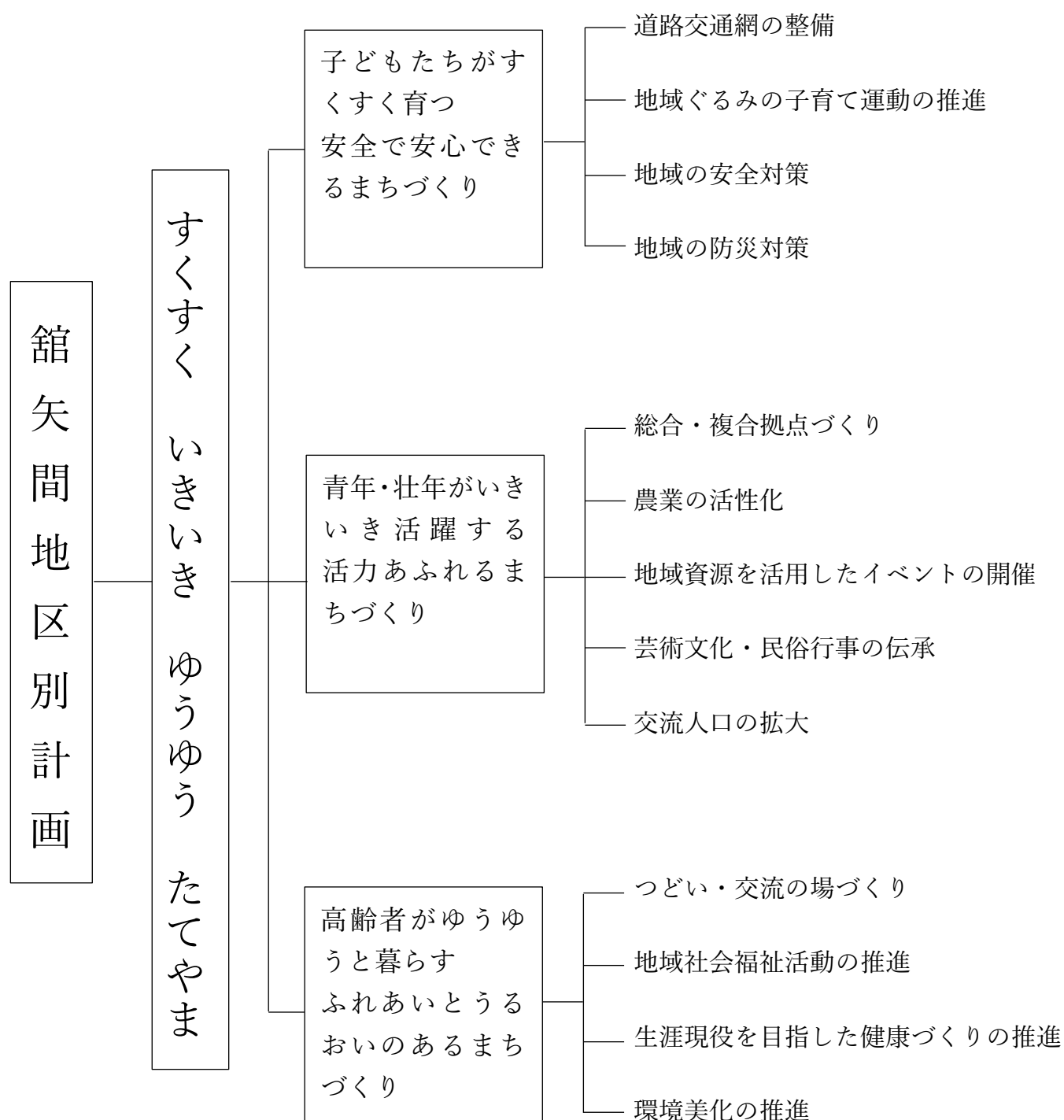
計画を実施していくため、次のキャッチフレーズと3つの方針を設けています。

すくすく・いきいき・ゆうゆう たてやま

「子どもたちがすくすく育つ 安全で安心できるまちづくり」

「青年・壮年がいきいき活躍する 活力あふれるまちづくり」

「高齢者がゆうゆうと暮らす ふれあいとうるおいのあるまちづくり」



3. 実施計画表

基本方針		主要施策	内 容
子どもたちがすくすく育つ安全で安心できるまちづくり	(1) 道路交通網の整備	道路整備実現に向けた要望活動	その他未改良町道及び角田上水と並行に走る自転車（歩行者）道路整備の要望
		地域ぐるみの道路維持管理・清掃活動	「道路愛護の精神」で、地区の道路清掃作業を実施する
	(2) 地域ぐるみで子育て運動の推進	子育て環境づくりの支援	子育てを自信を持ってできるような環境づくりを支援する
		子どもたちの校外活動支援	子どもたちが積極的に地域活動に参加できる環境を整える
			スポーツやボランティア活動等の校外活動に参加しやすい環境を整える
	(3) 地域の安全対策	子どもの健全育成の推進	各種団体と連携し、子どもの非行防止と犯罪に巻き込まれないための啓蒙活動を推進する
		館矢間地域生活安全マップの有効活用	既存マップを活用し、日頃の注意喚起を呼びかける
	(4) 地域の防災対策	地区民ひとりひとりの防災意識の醸成	防災情報の積極的な提供を行うとともに、訓練等への地区民の参加の呼びかけを強化する
		自主防災組織体制強化への支援	自主防災組織の活動を推進するための備品整備等の支援を積極的に実施する
青年・壮年がいきいき活力あるまちづくり	(1) 総合・複合拠点づくり	多目的公園の整備	放射光施設候補地であった所に、地区としての構想をまとめ（仮称）多目的公園の整備を要望する
	(2) 農業の活性化	農地集約化の推進	農地を効率的に有効利用するため、農業者等への面的な集約を推進する
		農地保全活動の活発化	ボランティアなどの受け入れ態勢を整える

実施主体	対象者	実施時期	事業・行事（実施中事業及び新規アイデア）	
			名称	説明
住民自治組織	行政	継続	道路整備要望	横断歩道、交差点のガードの設置等の要望を行う
道路愛護会	地区民	継続	道路愛護活動	道路愛護会等と連携し、地域ぐるみの道路維持管理、清掃活動を実施する
任意団体（組織）	子育て世帯	継続	育てやま事業	保護者同士の自主的な活動を支援する 子育て支援センターの活動に協力する
地区民	子ども	継続	館矢間9地区の親父＆パパの会 支援事業	館矢間地区の男性が中心となり、子供たちが住みよい地域にするためおやじの会と連携し地域貢献する
各種団体	子ども	継続	異世代交流イベント	地域の人や高齢者との交流イベントを促進する
地区民 各種団体	子ども	継続	地域内見守りパトロール	下校時間や夕暮れ時の子どもの安全に配慮した活動を行う
住民自治組織	地区民	継続	改訂版生活安全マップ作成	既存のマップに子供110番の家を追加掲載するなど、生活安全マップの更新を行う
自主防災組織・住民自治組織	地区民	継続	地域の防災対策	各地区自主防災組織の体制強化への支援及び自主防災組織との連携強化を図る 災害発生時の要支援者等のサポート体制を整える 地区住民一人ひとりが防災意識を持てる環境づくりをする
住民自治組織	自主防災組織	継続		
住民自治組織・地区民	行政	新規 令和4年度から	多目的公園構想事業	地区としての必要性を検討し構想をまとめる
農地所有者・行政	大規模農業者等	新規 令和4年度から	農地集約推進事業	農地を効率的に有効利用するための視察・講演会などの開催を支援する
生産者・小学校	消費者・子ども	新規 令和4年度から	ボランティアマッチング事業 農業ふれあい事業	SNSを活用したボランティア受け入れ。小学校のクラブ活動に『農業クラブ』を組み生産者が指導する

基本方針		主要施策	内 容
青年・壮年がいいきき活力あるまちづくり	(2) 農業の活性化	地場産品のブランド化の推進	行政と連携して作物等のブランド化を推進する
		農産物等販売場所の整備	地産地消の推進を図るため、販売場所を整備する
	(3) 地域資源を活用したイベントの開催	各種イベントの開催	現在実施しているイベントの定着と拡大を図る
			四季を通じて開催できるイベントを検討し、開催する
		森林等の有効活用	木材や竹材活用方法等の研修会を設け、有効活用を図る
	(4) 芸術文化・民俗行事の伝承	松掛神楽の伝承と継承	神楽の歴史と舞を次世代に引き継ぐ
		地域に伝わる各種民俗行事の継続	地区民が中心となり、次世代に伝えていく
		芸術文化活動の推進	芸術文化に触れる機会と活動を推進する
	(5) 交流人口の拡大	観光資源の発掘	貸農園事業を実施する
			自然を利用した新たな観光資源を発掘する
		定住の促進	移住定住サポートセンターと連携し定住を推進する
		情報の発信	SNS等を活用し、地区住民が地区のイベントや魅力を発信する
		丸森駅・駅前周辺の活性化	各種イベント等と連携し駅及び周辺を有効活用する

実施主体	対象者	実施時期	事業・行事（実施中事業及び新規アイデア）	
			名称	説明
生産者・行政・住民自治組織	消費者	継続	農産物加工品生産拡大事業	館矢間地区での農産物の生産、加工品等のPRや収穫体験イベント等を実施する
生産者・行政	地区民・来町者	新規 令和4年度から	農産物販売促進事業	こども園、駅などを利用し、販売する場所を設ける
実行委員会・住民自治組織	地区民・来町者	継続	春のたてやまいち 秋の収穫祭 早苗振大会 ひまわりまつり	館矢間地区で実施しているイベントの継続
団体	地区民	新規 令和4年度から	プチ花火大会 たてやま夏祭り(大盆踊り大会)	花火を持ち寄って花火大会を開く たてやま夏祭り(大盆踊り大会)
団体	各種団体	継続	里山を利用した地域おこし	森林セラピーや体験学習ができるように整備する
松掛山伏神楽保存会	地区民	継続	松掛神楽後継者対策事業	後継者対策として教則ビデオを作成する 保存会への新規加入者を募り育成支援をする
各種団体	地区民	継続	地域民俗行事継続事業	民俗行事を地区民が中心となって次世代へ伝えていくため、盆踊、春のお祭り、どんと祭などへ協力する
住民自治組織	各種団体・個人	継続	趣味の作品展	一般住民・小学校・こども園の作品を展示し、作品の発表の機会の場を設けることにより、グループの輪が広がり仲間づくりを支援する
行政・農地所有者	都市部住民	新規 令和5年度から	貸農園事業	農地・農家・農業指導者をリスト化し実施体制を構築する
住民自治組織・行政・地区民	来町者・地区民	新規 令和3年度から	アウトドアスポーツ場の整備	里山や河川を利用しマウンテンバイクやカヌーなどの体験できる場を設ける
住民自治組織・移住定住サポートセンター	移住希望者	新規 令和3年度から	空家・空地情報提供事業	地区内の空家や空地の情報を集約する
地区民	来町者	新規 令和3年度から	たてやま情報発信事業	地区民や館矢間のファンがSNS等で地区の情報等を画像やコメントで発信し、内外へ館矢間地区の魅力を伝える
各種団体・住民自治組織	来町者・地区民	新規 令和4年度から	駅前活性化事業	各種イベント等と連携し、駅及び周辺での物産等を販売する

基本方針		主要施策	内 容
高齢者がゆうゆうと暮らすふれあいとするおいのあるまちづくり	(1) つどい・交流の場づくり	多目的公園の整備 (再掲)	放射光施設候補地であった所に地区としての構想をまとめ（仮称）多目的公園の整備を要望する
		交流機会の創出・拡大	近所の人たちが気軽に集まって憩える場所を提供する
		イベント等の開催	子どもから高齢者までが世代を超えた交流ができるイベントを開催する
	(2) 地域社会福祉活動の推進	高齢者等への生活支援	1人暮らしの高齢者などの安否確認を兼ねた生活支援体制を充実させる
		高齢者の交通手段の確保	乗合交通手段を創出する
		ボランティアグループへの支援	電球交換やごみ出し、除草などを支援する
			ボランティアグループ等の活動支援を強化する
	(3) 生涯現役を目指した健康づくりの推進	レクリエーションとスポーツの普及・振興	レクリエーション、ニュースポーツの地域住民への浸透を図る
		ウォーキングの促進	ウォーキングコースを活用し、日常的にウォーキングを楽しめる環境をつくる
		介護予防と生活習慣病予防を推進	行政と連携し、健康講座を行い健康寿命の延伸を進めていく
	(4) 環境美化の推進	衛生環境の改善	地区公衆衛生組合の活動を支援する
		景観美化の推進	地域ぐるみで、花壇の整備、草刈り、清掃などを進め、環境美化に努める

実施主体	対象者	実施時期	事業・行事（実施中事業及び新規アイデア）	
			名称	説明
住民自治組織・地区民	行政	新規 令和４年度 から	多目的公園構想事業	地区としての必要性を検討し構想をまとめる
住民自治組織・各種団体	高齢者・全世代	新規 令和４年度 から	（仮称）館矢間版居酒屋	空き家を利用したコミュニケーションスペース（酒類提供含み）を開設する また、まちセンにて月１回程度の地区民飲み会を開催する
住民自治組織・各種団体	高齢者・全世代	継続	いきいき倶楽部(生涯学習事業)/高齢者大学	地域高齢者が健康で明るく元気で暮らせる「生きがいづくり」のための場を設ける また、囲碁、将棋、英会話などの趣味、自己啓発に勤しむ契機とする
行政・社会福祉協議会・住民自治組織	高齢者・全世代	新規 令和５年度 から	一人暮らし配食サービス/地区民相互の支え合い事業/週１回レストラン	ボランティアグループの配食サービスと連携し、一人暮らし世帯の高齢者の安否確認をする また、買い物支援、ITを活かした支援など、日常的に地域住民が相互的に助け合える活動に支援する さらに、地場産品を使った（仮称）まちセンランチ会を開設し、食事支援を行なう
地区民	高齢者・全世代	新規 令和４年度 から		
各行政区・ボランティアグループ	高齢者等	新規 令和３年度 から		
住民自治組織・地区社協	ボランティアグループ	継続		
館矢間体協・スポーツ団体	地区民・全世代	継続	グラウンドゴルフ大会／ベタソックス大会	高齢者でも気軽に取り組めるニュースポーツの大会を開催し、健康づくりと各世代の親睦を図る
住民自治組織	地区民・全世代	継続	生活習慣病・介護予防事業/歩け歩け会/健康教室	生活習慣の中で、運動、食事（桑の葉茶の摂取など）等の正しい理解を深め、歩く習慣を身につけるなど、行動と意識の変容促進のための活動をする
保健推進員・住民自治組織	地区民・全世代	継続		
住民自治組織	公衆衛生組合	継続	生活環境美化等の推進	植栽事業を行ない、地区公衆衛生組合と連携すると共に、ゴミ分別講習会や集積所整備等により、地域環境美化に努める また、犬・猫などのペットの正しい飼い方、野良猫対策など、飼養方法の啓もうを図る さらに、ホタルや在来魚種の保全など、生態系の保護・再生に取り組む
各種団体・地区民	地区民・来町者	継続		

4. 関係資料

(1) 第2次館矢間地区別計画策定委員名簿

役職	氏名	備考
委員長	川 村 賢 司	
副委員長	大 石 勝	健康福祉副部長
副委員長	石 塚 恵 美	
委員	佐 藤 勉	生活安全教養部長
委員	高 橋 剛	生活安全教養副部長
委員	安 島 和 仁	
委員	山 本 久 美 子	
委員	針ヶ 谷 裕 之	
委員	坂 元 広 嗣	地域振興部長
委員	平 岡 学	地域振興副部長
委員	佐 藤 良 和	
委員	根 元 亮	
委員	佐 藤 怜	
委員	横 塚 千 恵	健康福祉部長
委員	小 川 和 久	
委員	長 谷 部 朋 香	
委員	菊 池 秀 敏	庶務
委員	小 野 み ゆ き	庶務
委員	山 中 千 春	庶務

説明

(組織) 第4条に会員は地区住民とありますが地区住民が策定委員会の対象となるという意味であり、募集期間において応募があつての加入となります。

策定委員会は令和3年3月をもって解散しておりこの会則は関係資料として掲載しています。

(2) 第2次館矢間地区別計画策定委員会会則

第2次館矢間地区別計画策定委員会 会則

(名称及び所在地)

第1条 本会は、第2次館矢間地区別計画策定委員会(以下「本会」という)と称し、事務所を館矢間まちづくりセンターへ置く(丸森町館矢間館山字大門148番1)

(目的)

第2条 本会は、第2次館矢間地区別計画(以下「第2次地区別計画」という)を策定することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

平成18年3月に策定した「館矢間地区別計画書 すくすく いきいき ゆうゆう
「たてやま」の事業の見直し

調査

地区の将来像の策定

地域活性化対策計画等の策定

先進地の視察及び研修

その他 目的達成のための事項

(組織)

第4条 本会の会員は地区住民及び館矢間地区協議会各部会員並びに丸森町支援職員とし、次の組織をもって構成する。また、組織は、必要に応じて編成加除できるものとする。

委員長は館矢間地区協議会長をもって充てる。

副委員長 役場支援職員から1名、地域住民から1名をもって充てる

委員は、地域住民・丸森町支援職員・各部会員をもって充てる。

顧問は委員会に諮り会長が委託する。

(職務)

第5条 委員長は、委員会を統括する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。

3 役員の任期は、第2次地区別計画の策定が終了するまでとし、補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員の選出)

第6条 委員は、一般募集した住民及び丸森町支援職員並びに館矢間地区協議会の会長とする。

委員は、会議に参加し目的達成のための事業の推進にあたる。

顧問は、会長の求めに応じ、意見を述べる。

(会議)

第7条 委員長は、必要がある場合、その都度会議を招集し、議長となる。

2 会議は委員会並びに計画策定専門ワーキンググループとする。(計画策定専門部ワーキンググループ)

第8条 計画策定専門部ワーキンググループ(以下、WG)は、計画策定を行うにあたり、現状の把握と課題整理のための活動を行い、各分野別の主要施策をまとめるため次の専門部ワーキンググループを置く。

- (1) 生活安全部会
- (2) 地域振興部会
- (3) 健康福祉部会
- (4) 総務部会

2 計画策定専門部ワーキンググループは、必要に応じで編成及び加除できるものとし、横断的な情報共有をするものとする。

3 WGに、部会長、副部会長及び委員を置く。

4 部会長は、必要がある場合、その都度WGを招集し、会議の議長となる。

5 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。

6 WGの委員は、策定委員を兼務することができる。

(庶務)

第9条 策定委員会、WGの庶務は、舘矢間地区協議会事務局において処理する。

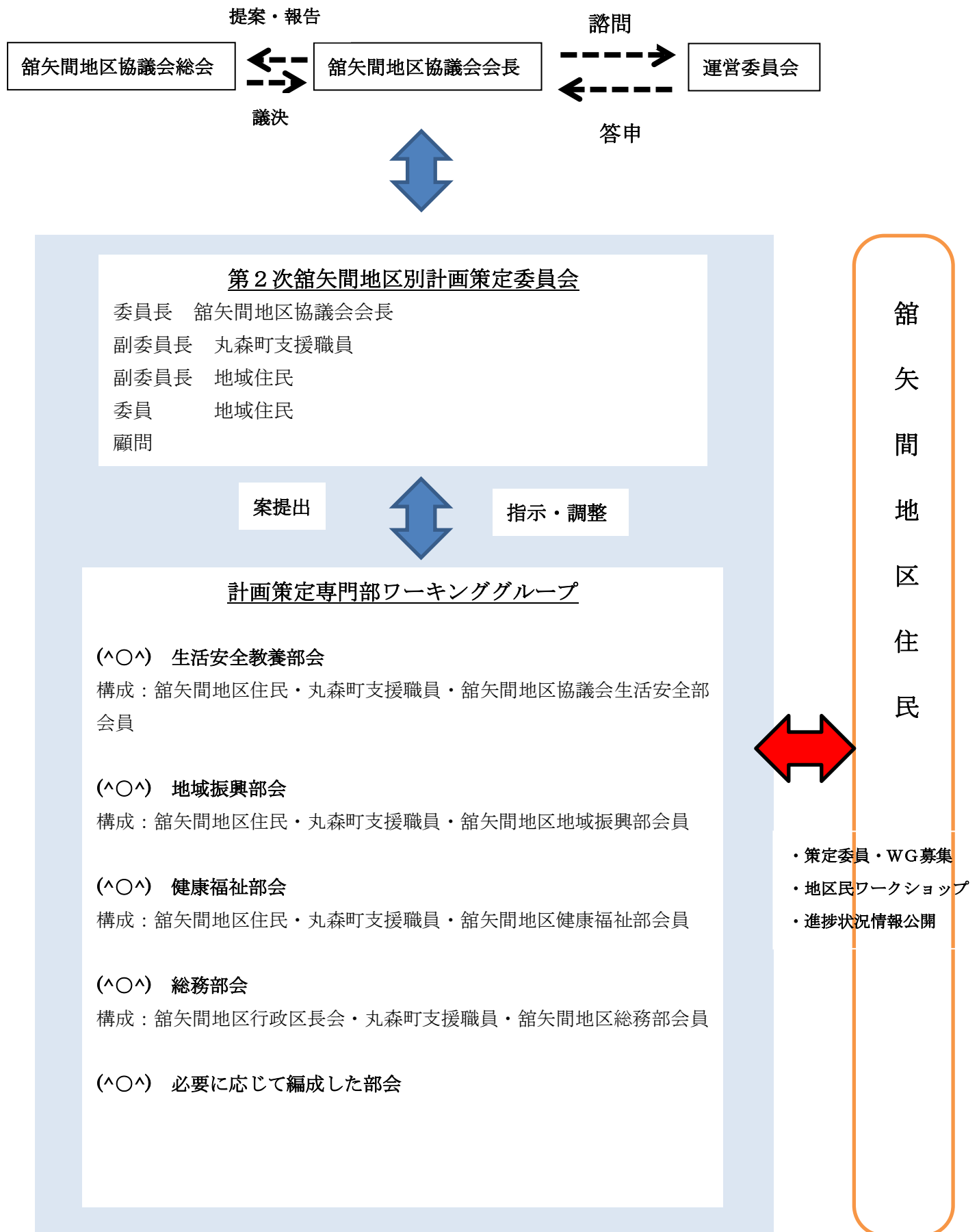
(委任)

第10条 この会則に定めるもののほか、策定委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この会則は、平成30年3月2日から適用する。

(3) 策定体制



(4) 策定委員会経過

平成30年 2月1日～ 平成30年 2月16日	策定委員募集
平成30年 3月 2日	第1回策定委員会 ・第2次館矢間地区別策定委員会設立総会 ・副委員長の選出 ・旧地区別推進事業の実施状況の説明
平成30年 3月27日	第2回策定委員会 ・3つの各部会の部会長及び副部会長の選出 ・部会ごとのグループワーク
平成30年 4月27日	第3回策定委員会 ・部会ごとのグループワーク
平成30年 6月 6日	第4回策定委員会 ・部会ごとのグループワーク
平成30年 7月13日	第5回策定委員会 ・部会ごとのグループワーク
平成30年 7月24日	第6回策定委員会 ・前回までのグループワークの経過を全体で確認
平成30年11月28日	第7回策定委員会 ・部会ごとのグループワーク
令和元年 6月13日	第8回策定委員会 ・部会ごとのグループワーク
令和元年 6月24日	館矢間地区わいわい懇談会 ・地区の高校生から80歳代に策定員を加え地区の課題や未来像など自由な意見を出し合った。31名参加
令和元年 7月 4日	第9回策定委員会 ・部会ごとのグループワーク
令和元年 9月18日	第10回策定委員会 ・部会ごとのグループワーク
令和元年東日本台風災害のため中断	
令和3年 3月22日	策定委員会部会長会議 ・最終調整及び確認
令和3年 3月25日	第2次館矢間地区別計画書完成

(5) わいわい懇談会の記録

【館矢間地区】わいわい懇談会テーマ別（現状）R1.6.24開催

テーマ	項目	現状
高齢者 社会 福祉活動 健康 環境	高齢者	高齢者が多い
		高齢者世帯が多い
		高齢者一人暮らしが多い、でもわからない
		一人暮らしが多い、孤独死があった
		福祉ボランティアの高齢化→後継ぎの不足
		老々介護、支援になっている
		老々介護になってきている。自分は大丈夫と思っても・・・
		高齢者徘徊している人がいる
		認知症の方々のトラブル増が心配
		南木沼400人、敬老会100人、館全体700人 減らない
		元気な老人多い、介護施設には要介護の人たち
		家族が遠方にいると・・・高齢者のみ世帯の増
	自然・景観	川沿いがきれい
		花植え自宅前、共同花壇
		田んぼのまわりみんなで花植え
		昔は角田上水にホタルがいた、シジミもいた
		ホタルがいる
	交通・道路	スクールバスがない。
		デマンド（あし丸くん）が使いづらい
		道路がせまくて危ない！！
		変な上り坂がある
		（阿武隈急行に）s u i c aがない
		車の急発進抑制の装置を
	人・人口 ・空き家	館矢間だからこそ車の免許必要。なかなか返納は・・・→代替策
		人がいなくなっている（きた）
		若い人がいない、人材が少ない
		高齢者→増、若者→少、一人→多い、空き家→多い
	お茶飲み会 ・交流	空家が増えている
		女の人は楽しめる
		男性はとじこもりがち
		お茶のみ会20団体
		老人の交流の機会増→お茶のみ会
	公園	お茶のみ会への誘い→行っている
		公園がきたない
		公園がない
	館矢間の 特徴・取組	遊具が少ない
		宅配弁当をしている
		歩いている（散歩）人が多い
		買物はできる
	館矢間の 悩み	まちセンに子どもたちも集まってくる
		夜暗い。信号明るすぎ。
		農地を持っていても耕作できない
		糖尿病の割合多い→他地区に比べて（事業？）マンネリ
		散歩道コースがほしい。モチベーションがとがるような
		駅前がさびれている、何かほしい、どうにかしたい
	その他	中間層△→子供植えない 高齢者のボランティアあり→高齢化
		足がない、支える人
子ども 地域と子育て 道路交通 安全防災	防災・防犯	かまど検査いたはずのおばちゃんがいなくなった
		避難場所が少ない
		水害の心配、高い建物がない
		場所によって防災サイレンが聞こえない
		家が増えているが「個人情報」により把握できない
	施設・公園	街灯が少ない
		施設が自由に使えない（学校）
		図書館がない
		交流できる施設が少ない（フリースペース）
		スポーツ施設がない
		遊ぶ施設がない
	道路・交通	公園の状態が悪い、ない
		大きな道路の横断がしづらい
		交通状況が良くなった（バイパス）
		事故は少ない
		道路がせまい
		う回路がない
		歩道が少ない
		交通量が増大している
		朝・夕小学校前道路が渋滞する

【館矢間地区】わいわい懇談会テーマ別（現状）R1.6.24開催

テーマ	項目	現状
子ども 地域と子育て 道路交通 安全防災	道路・交通	ダンプが多くて危ない
		通学バスがない、親の送迎必要
		人が多い、車が多い
		交通量に比べ横断歩道、歩道橋がない
	子ども ・子育て	親が心配し過ぎている（情報が多い）
		子育ての環境が整っている
		子どもたちのあいさつが良い
		子育て世帯はそこそこいる
		子どもたちは忙しい。習いごと等
		学校も忙しい
		子どもたち外遊びが少ない
		子どもたちの集まる所がない
		地域と子どもが接する時間が少ない
		子どもと地域が関われる交流（イベント）が少ない
		地区外から通学している小学生が多い
		子育てしやすい地区（周りに教えてくれたり、集まれる環境がある）
青年・壮年 農業 地域資源 芸術文化 民族行事 交流人口	団体・役職	役になった人は大変
		マサカ団→おやじの会→30代～50代を
		グループも積極的 おやじの会、区長会、各地区毎盆踊り、松掛神楽、集落営農(松掛、木沼)
		ほか
	農業 ・特産品	農業の担手不足
		後継者いない
		農地保全隊問題出てきている。今後の事を考える必要がある
		農地の基盤整理できないところある
		特産物の品質統一低下
		特産品がない
		昔は野菜産地
		多面的機能で、一度、農業をやめた人たちで恩返し
		直売所はない
		たてやまアグリサービス立上げ、組合組織が必要、地域おこし協力隊(農業を学んでいるところ)
	イベント	神楽、若者ががんばってほしい。発表の場・・・早苗大会
		神社祭りがなくなっている
		早苗大会農業者が高齢
		地域全体のイベント多い、いい季節のサイクルになっている。 たてやま市、ひまわり祭り、
		さなぶり大会、趣味の作品展、ホタル観賞会、資源リサイクル、地区民学校
		たてやま市←マンネリ化、毎年同じことをしている。
		敬老会
		松掛神楽→小学生も入っている→さなぶり大会で発表
	若者	イベント・・・たてやまいち、ひまわり、早苗大会～青年壮年参加有 ネーミングが高齢者対象に見える
		青年同士のつながりがない
		若い人の出演少ない
		18～30代いっぱいいるけど見えてこない、見えるところに出てきてほしい →もっといい感じにある
	高齢者	後継者が問題→5年、10年後心配
		若者が町外に出て行く
		高齢者が増えている。
	館矢間の自慢	高齢化が問題
		年配ががんばりすぎ
		店が出きてバイパス変化して買物しやすい
	館矢間にある店	こりす園、子育てサロンがあって、知り合いができて良かった。交流できる。育てやまカフェ
		史跡、宗うん院
	館矢間の悩み	カワカフェ、きくや（ラーメン屋）
		魅力がない。ぶっちゃけ「ない！」
		「じゅーびた」「あぶ急」×館矢間は、まだない もっと何かできる可能性
		駅さびれてる。フレスコの方が発展
外国人	外国人	空き家
		誰が住んでいるか分からない家も出てきた
		ベトナム実習生 関わりが薄い→地域行事に参加させよう
	外国人	外国人の方が結構いる

【館矢間地区】わいわい懇談会テーマ別（目指す姿）R1.6.24開催

テーマ	項目	目指す姿
高齢者 社会 福祉活動 健康 環境	交流	仲間を増やす
		男が参加することで新たなものが増えるかも
		男の人がでてくる（社会参加）
		世代交流ができるように
		高齢者同士のコミュニティの活性化声の掛け合い
		子供と高齢者の交流→こども園
		子ども食堂
	高齢者の 健康・生きがい	高齢者も趣味をもつ
		老人の生きがいづくり
		ピンピンコロシ→健康寿命の延伸
	自然環境	ホタルが育つ環境にしたい
		公園がきれいになるといいな
	交通	車にのらなくてすむ社会、公共交通機関の整備→高齢者の事故減に
		タクシー、代行の利用しづらさ→改善を
		介護タクシーの料金高い→安価な料金で
		北丸森をバスが通過したら→認定要
		あし丸くんのシステムの周知の不足→使いやすく自由に
	生活支援	筆甫→生活支援の充実
	開発	駅前発展
子ども 地域と子育て 道路交通 安全防災	まちづくり	オープンなまち
		人と人のつながりが強いまち
		人と人のつながりがある
		新しい世帯も地域にとけこんでいる姿
	道路・交通安全	道路の改良幹線・支線の区分で
		（支線の）道路を広げる
		事故が少ない環境づくり
		交通事故ゼロ！
		せまい道路改良。歩道があるといいな
		人命優先、死なせない
	防災・安全	洪水がおきた時の避難場所
		避難場所がもっとあるとよい
		用水路カードパイプの取り付け
	交流	様々な年代の人と交流
		世代間交流事業の計画、実践
		異世代間の交流をする
		赤ちゃんから高齢者が一緒に楽しめるイベント
	子育て・遊び場	地域で育むこども
		自分で生きる力が身につく
		子どもたちに外で遊んでほしい
		気軽に、一時的に、親が子育てについて相談できる環境がある
		子どもが増えるといいな
		他地域のこどもが遊べる
		子どもと遊べる場所
		子どもだけでも遊べる
		自由な遊び場
		公園の整備
		公園があるとよい
	その他	本屋が欲しい
		電車安く
青年・壮年 農業 地域資源 芸術文化 民族行事 交流人口	イベント	館矢間のイベント（例、早苗大会）に子どもたち、青年壮年に参加してほしい。
		世代間とわず参加できるイベントに
		神楽は続いてほしい
		たてやまいちマンネリ化役員の高齢化
		若い人も「一緒につくる」
		神楽やまつりを大事にまとまる力
		農業、田の集約が進んで耕作しやすい地に
	農業	農業組合（特に稲作）を作って法人化が進んでほしい

【館矢間地区】わいわい懇談会テーマ別（目指す姿）R1.6.24開催

テーマ	項目	目指す姿
青年・壮年 農業 地域資源 芸術文化 民族行事 交流人口	仕事	働く場の充実
	まちづくり	あまり都会化しないで、近所付き合いを残して(住民同士の交流)
		地域のまとまりをこれからも大切に
		新しい人も気軽に地域の輪にとけこめる
		新しい人も入りやすい雰囲気
		夢をもつ子供が多い地区
		老若交流
		共助
		大人もあいさつが多く明るい地区
		お年寄りも安心できる地区助け合い
		新しいアイデアをとりいれている
	遊び場	子どもたちがおもいきりあそべる場所があればいいね
		公園はあるけどきたない、草ボーボー
		まちセンが遊び場になっている



ポケットパークの花壇整備



松掛山伏神楽

【館矢間地区】わいわい懇談会テーマ別（アイデア）R1.6.24開催

テーマ	項目	アイデア	いいね			
高齢者 社会 福祉活動 健康 環境	交通	老人の定期券→どこからでも乗れる。老人以外も、金額変えて	1			
		バスを増やして利用者を多く				
		どこでも乗降可能なバス、車				
		住民同士の交通手段の融通→携帯を使える老人増なら				
	買い物支援	買物を助けてもらえる。メモを渡せば。				
	IT支援	タブレットを全世帯に配って要望を発信→防災に使える、安否確認にも	3			
		老人がITを使えるようなサポートを、教えてあげる	2			
	ペット	ドッグラン→ペットと触れ合い	1			
		猫を飼うマナー改善				
	スポーツ	高齢者のスポーツ振興→スポ少の				
		運動する場所→交通公園 スポーツビレッジ→野球、サッカー	5			
まちセン活用	まちセン→週1回レストランの開設、地場産を使う	1				
生涯学習	文化クラブの開催→英会話					
	高齢者向けの大学→勉強会館矢間で					
娯楽・ 遊興施設	飲み屋もあってよい					
	娯楽施設もあつたら→駅前の活性化					
子ども 地域と子育て 道路交通 安全防災	交流・イベント	新しくイベントを作るのではなく、今あるものをもっと幅広くみんなに広めて、みんなで楽しめるイベントを企画、宣伝する。 ゲーム大会（T L G、e-sports） 異世代交流イベント 小中高生VS大人運動会	1			
		3世代が交流できるイベントがあつた方が良い	2			
		地域で体験学習する（イナゴとり、田植え）	2			
		自然と触れ合う遊びをする→4年生以上宿泊体験活動	1			
		各地区の盆踊り（小学校やまちセン）ではなく、全体で行う＝企業へPR、参画してもらう＝地域の企業が分かる、就職先として考えるので	1			
		施設・遊び場	新しく建物を作らずに今あるものを利用する。公園やスポーツ施設も館矢間保育所などを利用すれば実現しやすいと思う。 地形を生かした遊び場設置（山、川） 公共施設をもっとオープンに（学校の開放） キャッチボールできるくらい広い場所 館矢間地区に大学又は研究施設を作る 遊具、親子で遊べる場所 公園の再整備（草むしり） 広めの遊べる公園、スポーツもできるの整備 小学校を遊ぶ場に解放する	1		
			子どもの見守り	下校時間に見守りをしてくれるボランティアの方がいてくれたらいい 地域で見守りをする 老人による見守り隊（朝・夕）、子どもとの交流としても	2	
				交通安全	通学路に標識がほしい 交差点にガードがある 横断歩道があればいい ポイントで通学路の途中に安全マークを作る	1
					防犯・防災	防犯灯を増やす ハザードマップに子ども110番の家をのせる 高台を作る（避難場所） 防災サイレンの代わりに、携帯・スマホに丸森バージョン の緊急警報を鳴らす
	まちづくり		地域に集会所があるとよい			
	土地利用		学校区、商業区、農業区（合理性的な土地利用）区割すればよい			
	宅地造成		宅地造成を進める、安心した子育てができる			
	青年・壮年 農業 地域資源 芸術文化 民族行事 交流人口		農業	農業している人のための婚活 中学校に農業部をつくる 都会の小学生とかに農業体験してもらう 農地集積するため話し合う。耕作者同士 農業やりたい人の受入体制をつくる 担い手づくりも組合の中で事業とする ボランティア募集 受入体制をつくってはどうか ボランティアを募って活用する。参加しやすいように 保育所のお母さん方へ野菜アピール 地元の野菜などを販売する場所 農業という選択肢	1	

【館矢間地区】わいわい懇談会テーマ別（アイデア）R1.6.24開催

テーマ	項目	アイデア	いいね
青年・壮年 農業 地域資源 芸術文化 民族行事 交流人口	交流・イベント	さなぶりに小・中学生に参加してもらう	
		さなぶり大会のバージョンアップ化	2
		地域祭りの復活（神社等）	1
		花火大会をやる	3
		たてやまいち裏実行委員会	
		交流（老、青、少）公園をつくる	
		駅で駅市とか	1
		たてやま夏まつり大盆踊り大会など	5
		子供達に囲碁将棋	3
		こども園を軸にした交流	
		外国人の方と交流し語学力UP	
		ベトナム人との交流イベント	1
		外国人実習生がたてやまいちに出る	1
		羽黒山トレッキング	
		たてやまインスタ部	3
		ママ達のコミュニケーションイベントお茶会の場	
		人ともっと関われる場をつくり（年齢問わず）	
		子どもが安心して集まれる場所を	
	企業・商業 施設誘致	大きな企業	
		イオンタウン誘致	
	施設	あるものを使って。（施設）新しいものを作らずに。 文化会館をつくる。伝承のために	1
		大きな公園ほしい サッカー、野球ができる場所	
		余裕施設を図書館にしてはどう？気軽に本を借りれる場所を	
		放射光計画地の活用 例）コンサート会場、 アスレチック広場、キャンプ	
	移住・定住	ジュピタとの連携活用（空家対策）	
		移住（100人くらい）	
		宅地造成	1
	まちづくり	大学生区長（裏区長）	1
		行政区アドバイザー任命(高校生)	1
		広報紙の充実	
	その他	ガキ大将をつくる	



わいわい懇談会の様子

(6) 館矢間地区人口推移・行政区別人口

館矢間地区人口推移

人口 年	世帯数	人口			65歳以上		15歳未満	
		男	女	計	人口	率	人口	率
昭和30年				3,872				
昭和35年				3,589				
昭和40年				3,376				
昭和45年				3,263				
昭和50年	774	1,636	1,723	3,359	398	11.85%	711	21.17%
昭和55年	815	1,743	1,812	3,555	444	12.49%		
昭和60年		1,759	1,843	3,602	526	14.60%	747	20.74%
平成2年	863	1,724	1,829	3,553	627	17.65%	686	19.31%
平成7年	920	1,776	1,912	3,688	848	22.99%	593	16.08%
平成12年	963	1,803	1,919	3,722	948	25.47%	549	14.75%
平成17年	1,064	1,748	1,901	3,649	1,024	28.06%	483	13.24%
平成22年	1,143	1,717	1,839	3,556	1,085	30.51%	445	12.51%
平成27年	1,233	1,640	1,770	3,410	1,233	36.16%	374	10.97%
令和2年	1,273	1,584	1,618	3,202	1,295	40.44%	328	10.24%

昭和30年から平成12年までは国勢調査の数値

平成12年からは、住民基本台帳の数値（12月末現在）

行政区別人口

地区名	男	女	計	世帯数
一区東	93	100	193	73
一区西	154	160	314	129
二区東	263	298	561	199
二区中	110	108	218	82
二区西	251	253	504	184
山田	227	192	419	168
南木沼	203	187	390	152
木沼	172	159	331	118
松掛	111	161	272	169
計	1,584	1,618	3,202	1,274

住民基本台帳の数値（令和2年12月末現在）